

令和3年度 南信州民俗芸能継承推進委員会 会議録

日時：令和3年5月24日（月）10:30～12:00

場所：南信州広域連合事務センター201・202 会議室

出席者：別紙のとおり

1 協議事項

(1) 第1号議案 役員の選任

委員長：北村 尚幸さん（大鹿歌舞伎保存会 事務局、大鹿村教育委員会 事務局）

委員長代理：勝野 喜代始さん（新野雪祭り保存会 会長）

以上のように選出された。

(2) その他

第2号議案から第5号議案について、全て原案のとおり承認された。

2 報告「コロナ禍における南信州の民俗芸能について」

<櫻井アドバイザー、飯田市美術博物館 近藤学芸員>

伊那民俗124号の中で、昨年のコロナ禍での南信州の民俗芸能の対応についてまとめた。
それについて説明する。

<飯田市美術博物館 近藤学芸員>

遠山の霜月祭りと天龍村の霜月神楽は、例年どおりに行う地区、一部のみを行う地区、
宮司による神事のみを行う地区など、地区により異なる対応となった。

一方で、伊那民俗124号の表紙の写真にもあるように、遠山中学校の文化祭で行われて
いる郷土の舞は実施された。遠山には郷土の舞がきっかけでお祭りに関わる若い人が出
てきており、コロナ禍であっても郷土の舞が行われたことには大きな意味があると思う。

<櫻井アドバイザー>

全体として中止になったところが多く、開催したところでも、地区外からの参加を禁止
するなどの措置を取ったところがあった。どの祭りも、その判断には大変苦慮したと聞
いている。

新野の雪祭りは、方針が二転三転したうえで実施されたが、本祭の前日になり、急遽中
止となり、皆さん非常に落胆したと聞いている。

新野の盆踊りは中止となったが、有志の方のみで踊りが行われた。

和合の念仏踊りは、住民の方に限定し、内容も大幅に縮小して実施された。

向方と大河内のかけ踊りは例年どおり、坂部と下栗の掛け踊り、泰阜温田の樽木踊りは
中止となった。

黒田人形、今田人形、早稲田人形、大鹿歌舞伎、下條歌舞伎、平谷歌舞伎は何れも中止

となった。

獅子舞もほとんどが中止となった。特に大型の練り獅子の場合は、幌の中に大勢が入るということ、また春に行われるために都市からの帰省者が多いということから、中止としたところが多い。

今年の大島山瑠璃寺の獅子舞については、幌をかぶらない形で開催されたとのこと。

花火もほとんどが中止となったが、清内路の手作り花火については、上清内路は中止、下清内路は、薬筒の大三国のみ、技術の伝承のために打ち上げたとのこと。

このように中止のところが多かったが、これが2年3年と続くと、保存継承に大きく影響するということが心配される。

コロナが収束したのちにも、これまでと同じようにできるのか、あるいは新たな工夫が必要なのか、知恵を出していくことが必要。

また、今年度大鹿歌舞伎では、オンラインでの配信という新しい試みをしたが、今後そういうことも考えていくことが必要ではないかと思う。

本日、長野県文化芸術情報発信サイトというサイトが立ち上がった。そこで「～コロナ禍における南信州の民俗芸能～民俗芸能の今と、未来のあり方を考えるために」という特集が掲載されたのでご覧いただきたい。

<大鹿歌舞伎保存会 北村事務局>

大鹿歌舞伎は、昨年度は春の定期公演、秋の定期公演ともに中止したが、小学校、中学校の歌舞伎発表会は、関係者のみの出席で実施した。

今年の春の定期公演は、初めての試みだったが、無観客で事前収録し、オンラインで配信した。

飯田ケーブルテレビ及び大鹿村内のケーブルテレビにより、期間限定で放送いただいた。お客様を呼ぶということ以前に、歌舞伎を伝承していくということを第一に考え、このように実施した。

大鹿中学校の歌舞伎も、9月末の発表会に向けて、4月から稽古を開始した。

稽古場所は今までよりも広い会場に変更して間隔をとるよう注意している。

<黒田人形保存会 高田顧問>

通常時は、盆と正月以外は、毎週土曜日に稽古をしている。

それがコロナ禍でできなくなり、各自家で練習することとした。

高陵中学校のクラブ活動は、昨年度は発表機会が無かった。

上郷小学校は授業時間に選択で人形劇をやっている生徒が20人ほどいるが、こちらも発表の機会が無かった。

せっかく一生懸命練習しても発表機会がなく残念だったが、今年もできるだけ稽古をやっていく。

思うようにいかないというのが現実。早く解決して大いに活動したい。

<上村遠山霜月祭り保存会 鈴川会長>

上村4地区の霜月祭りは、コロナ禍で開催が危ぶまれたが、基本として氏子のみの参加とし、神事だけするとか、時間を短縮するなど、4地区それぞれの対応をとった。

子どもの舞はどの地区もやらなかった。

遠山中学校の清流祭は行われ、1年生が和田、2年生が木沢、3年生が上村の舞を舞った。

早く収束していつもの霜月祭りができればと思っている

<新野雪祭り保存会 勝野会長>

昨年12月初めに関係者が集まり、祭りをどうするか相談した結果、氏子のみで開催し、夜店は出さない、お下りお上りというご神体を移動するための行列はやらない、さらには、阿南町内で陽性者が出た場合には中止するという申し合わせがあった

1月12日に準備、13日からお祭りが始まったが、その日の夕方、陽性者確認の報告が入った。新野の雪祭りは氏子の安寧を願う祭りでもあるので止む無く中止とした。

そもそも参加する氏子の人数は非常に少なく、例年の半分以下であった。

ワクチンの接種が始まったが、これが有効に機能して祭りができるようになってほしいと思う。

<和合念仏踊り保存会 平松会長>

毎年外部の方に大勢来ていただくため、そういう方の対応をどうするかが課題であったが、そんな中でも練習だけはやっていこうと取り組んだ。

祭り当日は密を避けるということを第一に考え、狭い場所での舞いは避け、お寺の広い境内だけで実施することとした。無事できてほっとした。

3 意見交換

<小川アドバイザー>

(1) 南信州広域連合4次計画に記されていることについて

南信州広域連合の4次計画の後期が令和2年度から始まっているが、この4次計画の中で民俗芸能の活用というのが明確に位置付けられ、それに基づいて様々な行政組織が地域一体となって取り組みを展開しているということは非常に重要なこと。

行政の具体的な未来ビジョンと活動をどう繋げていくかは、常に考えていかなければいけないこと。

(2) 価値を知る・伝える

ア 地域個性の魅力の発信

南信州が持つ地域文化の価値を、どのように地元の人に知っていただくか、また、どのようにして広い範囲に発信していくかということについては、継続的に取り組む必要がある。

祭りや民俗芸能は、地域個性の1つであるが、地域個性を失った地方は、今後魅力ある場所として見られなくなってしまうと思う。

南信州にとって民俗芸能は明らかに地域個性である。

最近では伝統野菜や食文化の発信などの取り組みも活発化しているが、そういったいくつかの地域個性を、組み合わせながら発信していくということも、今後考えなければいけない。

民俗芸能については魅力発信が重要。

ポータルサイトやファンクラブの取り組みがあるが、こういったオンラインを使った多角的な魅力発信を行うということも重要。

イ 学術的な価値づけ

将来的に、長く価値を持続させるためには、学術的な面でしっかりとした価値づけがされているということが重要。そうすれば未来永劫に魅力が失われることが無いタレントを使ったプロモーションビデオなどは一時的なものである。

学術的に根拠を持った価値づけが永続的なものとなる。

ウ 文化財指定への取り組み

学術的な価値を明確にするとともに、重要民俗文化財として、国指定、県指定、市町村指定について、積極的に取り組んでいくことが必要。

特に、市町村が積極的に文化財保護法に基づき、祭り・芸能の指定を行っていくことが大事。その後さらにステップアップして県指定、国指定に向けて働きかけをしていく。

ユネスコ無形文化遺産に向けての活動としては、和合の念仏踊りと新野の盆踊りが申請されていくことになると思うが、それによって新たな負担は生じず、むしろ自分達としてそれをどう活用していくかというポジティブな活動が必要になる。

内部へだけではなく、外部への価値発信などどう使っていくかということが重要。

エ 学校教育の副読本の制作

柳田國男記念伊那民俗学研究所で出している本で櫻井アドバイザーが書いた本があるが、この内容を小中学生にもわかりやすくし、管内の小中学校の学校教育の中で副読本として使用し、小中学生に、地域の個性としての祭りや民俗芸能を理解してもらおうということを地道にやっていくと良い。

(3) 新しい公共の創造

パートナー企業制度は、官と民と企業の連帯である。

今までは官の動きを中心として公共を作り上げてきたが、これからは官と民と企業が一体となった新しい公共を作っていくということを考えていく必要がある。

祭りや民俗芸能は、神事として行われる部分もあり、宗教と絡む部分があるが、地域の連帯を作っていくという公共的な意味は非常に強く、私は公共性の強い文化だと思っている。

南信州のパートナー企業制度は登録制度であるが、宮崎県は、実績を認定する制度として神楽サポーター制度を立ち上げた。官と民と企業が一体となった新しい地域づくりの在り方が、南信州を学んで他の県でも始まっている。

<櫻井アドバイザー>

柳田國男記念伊那民俗学研究所で毎年1冊出版している叢書というシリーズの5冊目として「民俗芸能の宝庫南信州」を出版し、美博学芸員時代に研究した内容のエッセンスを掲載した。南信州の民俗芸能は全国的に見てもすごいということを、少しでも理解していただきたいと思って書いた。

小川アドバイザーが言われたとおり副読本としては難しいので、わかりやすくまとめた冊子ができると素晴らしいと思う。

<小川アドバイザー>

ファンクラブで情報発信していく上では、祭り・芸能だけではなく、伝統野菜や食文化に関わるものなど、範囲も広げて発信をしていくと、興味を持ってくださる方が広がると思う。

ポータルサイトが非常に充実しているので、ファンクラブでは、ポータルサイトとは違う面の内容を盛り込んでいく工夫をするといいと思う。

南信州の地域個性としては、祭り・芸能は非常に大きいですが、それにいろいろなものを関連させることが重要だと思う。

<大鹿歌舞伎保存会 北村事務局長>

大鹿歌舞伎の春公演のオンライン配信について、5月3日に配信をスタートして連休中に観られるようにした。

総視聴者数は700人ちょっとだった。それなりの反響があったと思っている。

<事務局>

ファンクラブの運営について、事務局ではSNSでの記事の配信を試験的に行っている。この春行われた黒田人形の公演や、高森町大島山瑠璃寺の獅子舞がいつもと違った形で行われた様子の報告など、配信した。

また、大鹿歌舞伎がオンラインで視聴できるということも紹介した。

ユネスコ登録に関する情報などは、すごく反響が大きかった。

どんな情報が皆さんに関心を持ってもらえるかということなど研究しながら情報発信をしていきたい。

<南信州地域振興局>

南信州民俗芸能パートナー企業の登録数は101者に上っているが、芸能団体が希望する支援と、企業ができる支援をマッチングすることが必要だと考えているので、芸能団体の皆さんには、希望する支援があれば知らせてほしい。

<小川アドバイザー>

ユネスコ無形文化遺産への登録はインパクトがある。それは価値付けの1つの在り方だということができる。

地元にいると、その場所の祭り・芸能は当たり前のことになっていて、それにどういう価値があるか、やっている人以外になかなか伝わっていかない。

多くの地域の方々に価値を知っていただくことが重要。

<小川アドバイザー>

文化財保護法が改正され、登録制度が拡大され、無形文化にも登録制度ができた。

それぞれの市町村が持つ文化財に係る条例も改正が必要になってくると思う

無形文化も登録制度に入れたというのは、地域の活力をどうやって維持していくかということと考えられた面が強いので、積極的に条例改正等について考えていただきたい。

長野県は早くに食文化を文化財に取り込んでいる。無形文化財の登録制度について、県として前面に出してくださるとありがたい。

<南信教育事務所飯田事務所 曾我所長>

南信州民俗芸能カレンダーについて、子供たちが地域でやっていることがこういう形で取り上げられてありがたかった。

ある校長先生から、うれしかったという言葉も聞いた。

今後もよろしくお願ひしたい。

食育は今、学校でもとても大事にしている。食育の分野から伝統野菜や食文化について勉強したいと思ったので、情報等あれば教えていただきたい。

以上